

放医研見学会・講演会を併せて開催

2020.2.13

2月13日、当協議会主催にて千葉市にある(国研)量子科学技術研究開発機構(QST)放射線医学総合研究所(放医研)の見学会が開催されました。当日は19名(含事務局)が参集し、同研究所の最新技術を見学すると共に事業参入機会についての情報を収集しました。

冒頭、同研究所総務課長／田島亘氏及び当方を代表して県科学技術振興課長補佐／須賀川聡氏から、「この機会を産学連携等に有意義に活かしたい」旨の挨拶を頂きました。

その後、同研究所の概要紹介ビデオを視聴した後、2班に分かれて、①重粒子線棟(模型とイオン源室)、②静電加速器棟、③サイクロトロン棟で、当該研究者から懇切な説明を受けました。一部施設は通電中で、間近に見学することに制約はありましたが、この見学を通して、意欲的に取り組む放医研の現状を確認することができたように思います。これらの施設の特に重粒子線がん治療は世界の最先端を行くものであり、設備の小型化・汎用化と相まって、がん治療の将来展望を新たにしました。

見学会終了後、QST・イノベーションセンター研究推進課長／浅野聡司氏から「産学連携や成果活用への取組について」と題した講演を頂きました。治療の困難ながん治療などの医療分野に留まることなく、5Gによりますます重要となる通信技術の根幹ともいえる半導体の宇宙線対策にも技術利用されているとの情報も入手でき、技術革新への期待も感じました。また、講演後の質疑応答も帰途の時間に食い込む程の盛況で、参加者の関心の深さと、今回の催しの意義を改めて確認しました。



研究施設の見学状況(3枚とも)

廃止措置人材育成講演会

2020.2.26

県内では、東京大学が所有する研究用原子炉「弥生」が廃止措置中であり、(国研)日本原子力研究開発機構(JAEA)が所有する複数の原子力施設や東海再処理施設も廃止措置が決定しています。

こうした現状は、廃止措置作業を一つのビジネスチャンスとして捉えることができます。

2月26日、いばらき成長産業振興協議会主催、当協議会共催で「原子力施設等の廃止措置に関する人材育成・東海再処理施設の概要と廃止計画」と題して、講演会が開催されました。会場の、いばらき量子ビーム研究センター1階大会議室には35名(含事務局)の関係者が参加しました。

最初に、東京大学大学院工学系研究科教授／岡本孝司氏から「原子力施設等の廃止措置に関する人材育成」のテーマのもと、当該分野は原子力の専門家よりも圧倒的に非原子力分野の技術者が必要であること、また原子力の専門家や技術者については新たな人材が得難いことから、再教育や再訓練による充足の必要性などが提起されました。

次に、JAEA核燃料サイクル工学研究所・副所長兼再処理廃止措置技術開発センター長／清水武範氏から東海再処理施設の廃止をテーマとする廃止措置に関する講演があり特に、70年に及ぶ廃止措置に異業種・異分野のサプライチェーン構築ニーズが参加者の関心を集めました。



岡本孝司氏



清水武範氏



講演を聞く参加者

会員(法人)異動のお知らせ

(R2年3月1日現在／敬称略)

◆ 新規入会

(合計会員企業数：228社)

・株式会社 アイエスアイ

長山 勇二郎 (設計課主任)

〒319-1116 東海村舟石川駅西1-2-1

電話：029-306-1175 FAX：029-306-1176

・株式会社 アトックス

野村 俊文 (東海営業所所長)

〒319-1112 那珂郡東海村大字村松161-2

電話：029-282-1661 FAX：029-355-2024

・アイムス株式会社

岩田 泰 (企画営業部マネージャー)

〒312-0063 ひたちなか市田彦1637-55

電話：029-353-3201 FAX：029-353-3202



講演会会場にて

***** J-PARC NEWS 発行 *****

J-PARC NEWS 第178号が発行されました。

<http://j-parc.jp/ja/news/news-j.html>